

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
現代の国語	2単位	農業科（畜産科）	1年

教 科 書	新編現代の国語（東京書籍）	副 教 材	新総合 図説国語（東京書籍）
-------	---------------	-------	----------------

科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	論理的な文章の読み方 「こそめスープ」 作者の主張と論理のとらえ方 「水の東西」 筆者の主張を捉えるⅠ 「りんごのほっぺ」	・ 話題と主張を意識して読解する力を身に付ける。 ・ 文章の論理を捉える力を身に付ける。
2 学 期	筆者の主張を捉えるⅡ 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 筆者の主張を捉えるⅢ 「鍋洗いの日々」 論理的に解釈するⅠ 「美しさの発見について」 新聞記事を読んで意見文を書こう	・ 複数の話題の関連を考えながら読む力を身に付ける。
3 学 期	論理的に解釈するⅡ 「真の自立とは」 資料を活用して発表しよう	・ 文章の展開と筆者の論理を捉える力を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評 価 規 準	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能、中でも実社会にでて必要となる基礎的な語彙（漢字の読み・書きを含む）を獲得できているか。
	思考・判断・表現	文章の論理を意識し、論理的に考え、他者との関わりの中で論理的に伝え合う力を高めることができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	積極的に授業に参加し、学習内容に対して進んで自らの考えを深めたり、広げたりしているか。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○
評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
言語文化	2単位	農業科(畜産科)	1年

教 科 書	新編 言語文化（東京書籍）	副 教 材	新総合 図説国語（東京書籍）
-------	---------------	-------	----------------

科目の目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	詩に親しむ 「短歌」 漢文に親しむ 「訓読の基本」「故事成語」 創作 「俳句」	表現に着目しながら鑑賞する力を身に付ける。また、日本語の文化や特色を理解する。
2 学 期	古文に親しむ 「筒井筒」 小説に親しむ 「羅生門」 創作 物語の展開を考える	情報と情報を関連付けながら解釈する力を身に付ける。また、本文の描写から人物像を捉える力を身に付ける。
3 学 期	古文に親しむ 「木曾の最期」 漢文に親しむ 「魏武捉刀」	昔の人々のものの見方や考え方、感性に触れ、自分の見方や考え方を広げる。
備 考 (学習のポイント)	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 積極的に読書し、自分の知見を広げること。時間がある時は国語便覧を積極的に読むとよい。	

評 価 規 準	知識・技能	古文や漢文を読むために必要な基礎的な知識、技能を身に付けているか。中でも、漢字の読み、下記の知識や技能を獲得できているか。
	思考・判断・表現	表現や描写を捉え、読み取れることを整理し、他者との関わりの中で自分の考えを相手に伝える力を高めることができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	積極的に授業に参加し、学習内容に対して進んで自らの考えを深めたり、広げたりしているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点
---------	---

地理歴史

科目名	単位数	学科	学年
地理総合	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	副教材	新編フォトグラフィア（東京法令出版）
-----	---------------------------------	-----	--------------------

科目の目標	地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	地図でとらえる現代世界 1 地図と地理情報システム 2 結び付きを深める現代世界 国際理解と国際協力 1 生活文化の多様性と国際理解	・地図や地理情報システムを用い、目的や用途について考察する。 ・自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの重要性について理解する。
2 学期	1 生活文化の多様性と国際理解 2 地球的課題と国際協力	・よりよい社会の実現を視野に、国際的課題について主体的に追究する。 ・持続可能な社会づくりについて考察する。
3 学期	2 地球的課題と国際協力 持続可能な地域づくりと私たち 1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望	・世界や生活圏でみられる自然災害について、対応の重要性を理解する。 ・生活圏の地理的な課題について追究する。
備 考 （学習のポイント）	1 学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 2 家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 3 地名などは地図帳を利用して、しっかりその位置を確認しよう。 4 社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評価 規 準	知識・技能	世界の生活文化の多様性や、地理的課題を理解しているとともに、調査や資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	地理的な課題の解決に向けて考察したことを、効果的に説明できる。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評価方法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出（授業中の取組や家庭での復習状況） ○授業態度（意欲的な態度、発表内容） ○課題提出（ワーク作業や長期休業中の課題など） ○定期考査（考査範囲の適切かつ計画的な学習成果）
------	--

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学 I	2 単位	農業科（畜産科）	1 年

教 科 書	新 高校の数学 I（数研出版）	副 教 材	ポイントノート数学 I（数研出版）
-------	-----------------	-------	-------------------

科目の目標	高校数学の基本を確実に理解するとともに、家庭学習を含めた学習習慣の定着を目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	第 1 章 数と式 数と式の計算 1 次不等式	・ 中学校の内容の復習から 高校数学へ発展します。
2 学期	第 2 章 2 次関数 2 次関数とグラフ 2 次関数の値の変化	・ 関数のグラフおよびグラフ と方程式・不等式の関係 について学ぶ。
3 学期	第 3 章 図形と計量 三角比	・ さまざまな図形の計量法 を学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 第 1 章は、高校数学の全ての基本になります。繰り返し練習問題を解くことで、確実に定着 させましょう。 2 第 2 章は、まずはグラフの特徴をつかむことが大事です。図形的な意味を理解し、グラフを 利用して問題を解けるようにしましょう。 3 第 3 章は三角形の辺の長さや角度に関する内容です。正しい図をかくことを心掛けましょう。 2 つの三角定規の 3 辺の比はよく使うので、覚えておく必要があります。 4 日々の復習が大事です。しっかりと授業に集中し、自宅での学習を充実させましょう。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味を理解し、事象を数学的に解釈し、処理することができている。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

理 科

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
科学と人間生活	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	高等学校 科学と人間生活 (啓林館)	副教材	サンダイヤル 科学と人間生活の学習ノート (啓林館)
-----	-----------------------	-----	-------------------------------

科目の目標	現代社会では、科学技術がいたるところで生かされている。その科学技術がどのように発達してきたか、また人間生活とどのように関わっているのかを考え、科学技術とうまく調和した生活を送ることができる資質を身に付ける。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	序章 科学技術の発展 第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 第2章 微生物とその利用	- 科学に関する関心を高める。 - 生物の基礎知識とその応用例を理解する。
2 学 期	第2部 物質の科学 第1章 材料とその利用 第2章 衣料と食品 第3部 光や熱の科学 第1章 熱の性質とその利用	- 化学の基礎知識と、日常生活における利用について理解する。 - 熱の基礎知識と、日常生活での役割を理解する。
3 学 期	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球 第2章 自然景観と自然災害	- 太陽が地球に対してどのような影響を及ぼしているのか理解する。 - 自然災害のしくみを知り、災害に備える。
備 考	科学という学問は、身近な自然現象全般の理解が中心になります。そのためには理解しようとする力つまり理解力が必要です。理解力は、まずは国語力が大切です。その国語力を鍛えるには読書が何よりです。できれば科学に関したものがよいですが、積極的に読書することを勧めます。	

評価 規 準	知識・技能	- 用語や現象等を正しく理解できているか。 - 実験の内容を理解し、主体的に参加できているか。
	思考・判断・表現	学習したことを活用し新しいことを考え、自分の言葉で表現することができるか。
	主体的に学習に取り組む態度	- 科学に興味を持ち、日常生活と関連付け考えようとしているか。 - 課題や提出物などをきちんと期限までに提出できているか。

定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、テキスト提出、授業態度、実験態度等を総合的に評価する。 ○テキスト提出（問題を解き、まとめられているか） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表ができているか） ○実験（意欲的な取組、実験結果の考察ができているか） ○課題提出
------------------	--

保健体育

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
体 育	3単位	農業科（畜産科）	1年

教 科 書	新高等保健体育（大修館書店）	副 教 材	最新スポーツルール 24（大修館書店）
-------	----------------	-------	---------------------

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	体づくり運動（通年）集団行動 新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バレーボール）（ソフトボール） 体育理論（人間にとって「動く」とは何か、スポーツの始まりと変換）	- 自己の体力や生活にに応じて取り組み、実生活に役立てる。 - 自己に適したペースを維持して走る。
2 学 期	球技Ⅱ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール） 陸上競技〔中・長距離走〕 校内マラソン大会【男子】8km【女子】4km 体育理論（スポーツ文化の楽しみ方、オリンピックと国際理解）	作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3 学 期	球技Ⅲ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール） 体育理論（スポーツの経済、ドーピングとスポーツ倫理）	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
備 考 (学習のポイント)	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。（5分前行動） 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	

評 価 規 準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。				
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。				

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	出席状況、授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 出席状況、授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○ 運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○ 体育理論の理解度（理解度の確認テスト）
---------	--

保健体育

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
保 健	1 単位	農業科 (畜産科)	1 年

教 科 書	新高等保健体育 (大修館)	副 教 材	新高等保健体育ノート (大修館)
-------	---------------	-------	------------------

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	1 単元 現代社会と健康 日本における健康課題の変化 健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションと健康に関する環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択 現代における感染症の問題 感染症とその予防 性感染症・エイズとその予防	・健康の考え方の変化、個人の意思決定や行動選択、性感染症の対策について理解する。
2 学期	2 単元 安全な社会生活 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と緊急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当 生活習慣病とその予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康	・心肺蘇生法や応急手当の正しい手順や方法、個人や社会環境への対策、感染症の対策について理解する。
3 学期	1 単元 現代社会と健康 休養・睡眠と健康 がんの予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患への対応	・ストレスへの対処法、交通事故の防止策について理解を深める。
備 考 (学習のポイント)	1 心身の健康課題や健康に対する考え方の変化に対応するため、新聞・ニュース等に関心を持ち、よく見よう。 2 教科書・ノートは忘れず持参し、板書等はノートに必ず取ろう。 3 提出物は期限を守り、確実に提出しよう。	

評価規準	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	健康について自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的に応じて他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認) ○授業態度 (まじめな態度、積極的な発表) ○課題・レポート提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)
---------	--

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
美術 I	2 単位	農業科（畜産科）	1 年

教 科 書	美術 1（光村図書）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	絵画 基礎、立体感を出すには、陰影 まとめ デザイン 色彩学習、着彩の技法、紙の切り方。	・基本的な絵画技法を習得する。 ・アイデアを出しデザインを工夫する。
2 学期	彫刻 紙粘土の扱い方、頭部の制作、骨格の理解、 筋肉の付き方、ヘラの技法。 絵画 着彩の技法、混色の理解。	・様々な表現方法を試す。 ・立体的に表現するおもしろさを味わう。
3 学期	工芸 かまぼこ板を加工する、製図、糸鋸の扱い方、 ドリルの使い方、組み立て方法、仕上げの方法。 鑑賞 作品の理解。	・使う、遊ぶためのデザインを考える。 ・道具の正しい扱い方を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 絵画技法を習得し、立体的に表現できるようにしよう。 2 自分の考えているイメージを形にしよう。 3 様々な作品を鑑賞し、よさを発見しよう。	

評価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認）… Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など）… Ⅲ の観点 ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）… Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出… Ⅱ・Ⅲ の観点
---------	---

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
音楽Ⅰ	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	音楽Ⅰ Tutti plus（教育出版）	副教材	
-----	----------------------	-----	--

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 校歌 日本歌曲 器楽表現 リコーダー 鑑 賞 ミュージカル	・校歌を歌えるようにする。 ・日本語の抑揚に着目してこの道を歌う。 ・リコーダーでふるさとの二重奏を演奏する。 ・ミュージカルの魅力を理解する。
2 学 期	歌唱表現 ドイツ歌曲 器楽表現 ヴァイオリン テーブルミュージック 鑑 賞 越天楽	・正しい発音で野ばらを歌えるようにする。 ・ヴァイオリンの基本的な奏法を学ぶ。 ・テーブルを使ったリズムアンサンブルを創作し、演奏する。 ・雅楽の歴史や仕組みについて理解する。
3 学 期	器楽表現 ギター 創作表現 循環コード 鑑 賞 アジアのさまざまな音楽	・コード奏ができるようになる。 ・循環コードを基にした旋律を創作する。 ・民族音楽の音楽的な特徴を理解する。
備 考 （学習のポイント）	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日常生活でも、様々な音楽と親しもう。	

外国語（英語）

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
英語コミュニケーションⅠ	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	COMET English Communication I (数研出版)	副教材	Enjoy! ドリルで英文法（美誠社）
-----	---	-----	---------------------

科目の目標	英語の音声や語彙などの理解を深め、実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける。日常的话题等について、英語で要点や話し手の意図などを理解したり、表現したりする力を養う。英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	中学校の復習 Lesson 1 What Did You DO in Japan? Lesson2 When Do You Feel Happy?	be 動詞、一般動詞 否定文、疑問文 過去形とは 進行形とは
2 学 期	Lesson3 Onigiri Goes Overseas Lesson4 Pictograms	いろいろな助動詞 不定詞の3つの用法
3 学 期	Lesson5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler Reading01 Let's Try Riddles	動名詞とその役割 英語のなぞなぞに挑戦
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもって取り組もう。 2 英語が使えるようになるために、基本的な単語、文法をしっかり習得しよう。 3 基礎・基本の定着を図るため、必ず予習をして授業に臨み、学習に集中しよう。 4 授業中は、説明をよく聞き、ノートは必ず取ろう。	

評 価 規 準	知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题等について、その内容を捉えたり伝えたりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题等について、必要な情報等を捉えたり、伝えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を使おうとしている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、小テスト、パフォーマンステスト、ノート等の提出物、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な発表、ペアワーク、グループワーク） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 小テスト（単語テスト、地道な取組状況）
---------	---

家 庭

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
家庭総合	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)
-----	-------------------------	-----	-----------------------------

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 生涯を見通す 第10章 持続可能な生活を営む 第7章 衣生活をつくる (実習) 被服製作 ホームプロジェクト (夏休み課題)	・生涯を見通した青年期の生き方について学ぶ。 ・資源や環境に配慮した生活行動を学ぶ。 ・被服製作を通して、衣生活の自立に必要な知識と技能を身に付けることができる。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。
2 学 期	ホームプロジェクト (発表会) 第7章 衣生活をつくる 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第8章 住生活をつくる 第3章 子どもと共に育つ (実習) 保育作品製作	・被服管理の知識と技術を身に付け、健康で快適な衣生活の方法を学ぶ。 ・高齢者の生活の課題から、自立生活の支援の方法を学ぶ。 ・福祉や社会的支援について理解し、共に支え合って生活することの重要性について学ぶ。 ・安全で環境に配慮した住生活の方法を学ぶ。 ・乳幼児の心身の発達と生活について学ぶ。
3 学 期	第3章 子どもと共に育つ 第2章 人生をつくる	・子どもの発達に必要な周りの人々の果たす役割を学ぶ。 ・生涯を見通した自己の生活について考えることができる。
備 考 (学習のポイント)	1 将来の生活設計を考え、今の家庭生活に興味を持とう。 2 家族の一員としての役割を果たすために、家族との会話を大切にしよう。 3 基礎的・基本的な知識と技術を定着させるために、積極的に家事を手伝おう。 4 実践力を養うために、検定やホームプロジェクト、家庭クラブ活動に参加しよう。	

評 価 規 準	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業態度等を総合的に評価する。 ○ プリント提出（整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元ごとの確認テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
総合実習	3単位	農業科（畜産科）	1年

教 科 書	副 教 材
-------	-------

科目の目標	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理に繋がる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 ローテーション実習 ・ 大家畜 乳牛の体の特徴や日常の管理方法について ・ 中小家畜 豚や鶏の体の特徴や日常の管理方法について ・ 栽培 土作りや野菜・草花の日常の管理方法について	・ 各専攻班の内容を知る。 ・ 各専攻班の一般管理の技術と方法を理解する。
2 学 期	2 ローテーション実習 ・ 大家畜 飼料作物の栽培と調整について ・ 中小家畜 豚や鶏の繁殖・育成等の飼養管理方法について ・ 栽培 タマネギ苗や草花の栽培管理方法について	・ 各専攻班の状況に応じた知識や技術を知る。 ・ 各専攻班の状況に応じた対応を身に付ける。
3 学 期	3 ローテーション実習 ・ 大家畜 乳牛の毛刈りや調教について ・ 中小家畜 ポニー等の小動物の管理方法について ・ 栽培 野菜・草花苗の栽培と管理方法について	・ 各専攻班の管理ができる。
備 考 (学習のポイント)	1 総合実習は動植物を扱う科目です。適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備は怪我につながるのできちんと着用しよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 危険を伴う実習もありますので先生の説明をよく聞き、機器の使い方を理解した上で、実習に取り組もう。	

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業と環境	5単位	農業科（畜産科）	1年

教 科 書	農業と環境（実教出版）	副 教 材	
-------	-------------	-------	--

科目の目標	(1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目		学 習 の ね ら い
1 学 期	畜産分野 1 生物を育てる学習 2 ニワトリの一生と主な性質	栽培分野 1 栽培の基礎 2 夏野菜の栽培 ・トマト、ナス、ピーマン、オクラ	・飼育及び栽培管理の知識や技術を身に付ける。
2 学 期	3 産卵鶏の飼育 4 産卵のしくみ 5 ニワトリの解体	3 作物の特性と栽培のしくみ 4 秋・冬野菜の栽培 ・ハクサイ・ダイコン・キャベツ・ニンジン	・飼育及び栽培管理の知識や技術を身に付ける。 ・命の大切さを学習する。 ・プロジェクト学習法を身に付ける。
3 学 期	6 プロジェクト発表	5 作物をとりまく環境とその管理	・プロジェクト学習のまとめ方、発表方法を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 農業学習は大きく分けると動物と植物の育て方を学びますが、その基礎・基本を学ぶのが「農業と環境」です。農業に興味・関心を持ち、学習しようと思う気持ちが湧いてきたら、この科目の目標はほぼ達成できたと考えていいと思います。 2 プロジェクト学習で授業を行います。ニワトリの飼育と野菜の栽培を行い、3学期末には研究をまとめてプロジェクトの発表会を行います。		

評 価 規 準	知識・技術	・農業に関する基礎的な知識を身に付けることができたか。 ・飼育及び栽培の、基本的な技術・技能が身に付いたか。
	思考・判断・表現	・飼育及び栽培のプロジェクト学習を通して科学的な思考や判断ができたか。 ・プロジェクト内容をまとめて発表できたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・飼育や栽培に興味を持ち、内容の理解に努め積極的に発言しているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、提出物、授業態度、出席状況等を総合的に評価する。 ○ノート、ファイルの提出（整理状況の確認、レポートの進捗状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表、グループワークの態度） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

情 報

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
情報Ⅰ	2単位	農業科（畜産科）	1年

教科書	情報Ⅰ Next（数研出版）	副教材	情報Ⅰ Next サポートノート （数研出版）
-----	----------------	-----	----------------------------

科目の目標	社会全体の情報通信技術の変化に対応できる知識・技術を習得させ、社会全体の環境保全にもつながる技能を身に付けさせる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション	・ 情報社会における私たちの役目を考える。 ・ デジタルのしくみを理解する。 ・ 伝達方法の工夫を学び、コミュニケーションについて考える。
2 学 期	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース	・ ネットワークのしくみを理解する。 ・ 情報の管理方法について学び、対策について考える。
3 学 期	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第3節 データの分析 巻末資料（演習）	・ 情報を活用した問題解決を行う。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 情報の授業で培った問題解決能力や情報リテラシー能力をより高めるために、探究の時間や各教科で実践することを心掛ける。 2 分からないことは周囲の生徒や教師にすぐに質問すること。	

評 価 規 準	知識・技能	・ 情報機器に興味をもち、主体的に活用方法を考えられる。
	思考・判断・表現	・ 情報の正誤判断を行い、自分の伝えたい形に処理し表現できる。
	主体的に学習に取り組む態度	・ 情報リテラシーやモラルを身に付けている。 ・ コンピュータの処理方法について理解している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	○ 定期考査、授業中における実技テスト、実習課題 等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（真面目さ、積極性、協調性 等） ○ 実習（ソフト使用法の理解、個性的で目的の意図を理解した作品 等）
---------	--

総 合

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
高校基礎	1 単位	農業科（畜産科）	1 年

教 科 書	「高校基礎」テキスト (野村高校)	副 教 材	各種資料（学校作成）
-------	----------------------	-------	------------

科目の目標	1 基礎学力向上と定着を図り、より幅広い進路選択を可能にする。 2 達成感を味わうことにより勉強することの意欲を高め、継続的に学びに向かう姿勢を作る。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	1 マナトレ対応テスト 10 級～7 級の問題 2 マナトレ対応テスト 6 級の問題（国語、数学、英語）	・国語・数学・英語の基礎的・基本的な考え方を理解する。
2 学期	3 マナトレ対応テスト 6 級の問題（国語、数学、英語） 4 マナトレ対応テスト 5 級の問題（国語、数学、英語）	・国語・数学・英語の基礎的・基本的な考え方を理解する。
3 学期	5 マナトレ対応テスト 4 級の問題（国語、数学、英語） 6 復習及び発展問題	・国語・数学・英語の基礎的・基本的な考え方を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 国語・数学・英語の基礎を学び直し、高校の授業にスムーズに移行できるようにする。 2 中学校時代の内容も活用して、苦手分野を克服する。	

評価 規 準	知識・技能	高校の授業を学ぶ上で必要な基礎的な知識や考え方を理解している。
	思考・判断・表現	自ら考察を深め、中学校の内容を基に基礎的・基本的な知識と技術を活用できている。
	主体的に学習に取り組む態度	英数国の基本を理解するため、積極的に取り組んでいる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、提出物、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（積極的な取組） ○ 進度表の提出 ○ 考査への取組
---------	--